



発行 障害者支援施設 さがみ緑風園
〒252 - 0328 相模原市南区麻溝台2 - 4 - 18
TEL042 - 766 - 2255 URL www.pref.kanagawa.jp/cnt/f488/
発行者 弘末竜久

福祉機器活用推進の取組について

福祉機器活用推進担当 生活第二課8ホーム長 中島三枝

福祉機器とは、使用する方の生活活動を援助するとともに、介護者負担を軽減するために使われる用具や機器のことで、車椅子や電動ベッド、意思伝達装置など様々な種類があります。福祉機器はこれまでも使用されてきていますが、常にリニューアルしていますし、十分に活用しきれていなかった物もあります。当園では今年度、福祉機器活用で得られる可能性に注目し、利用者の皆様の生活の質向上を目指し、改めて活用推進に取り組むこととしました。

5月には車椅子の分野に新規参入した業者さんから取り回しが軽い車椅子や体圧分散性の高い車椅子用クッションを紹介いただき、試乗会を実施しました。参加者の座圧測定を行い、実際に体重の分散などを確認できたことは大変参考になりましたし、機器の進歩を実感しました。

10月に実施した研修では、介護保険福祉用具の事業者さんにご協力いただき、在宅生活で役立つ福祉用具を利用者、職員ともに体験しました。用途に応じた多種多様な車椅子があることや、介護保険制度に基づくサービスの情報を知る機会となりました。障害者支援施設は、介護保険の適用除外施設であるために、あまり馴染みのなかった介護保険サービスですが、障害福祉サービスと介護保険福祉用具のレンタルサービス（保険外）を組み合わせることで、生活の幅を広げられる可能性があるのではないかと感じています。

また、12月には意思伝達装置eeyes（イーアイズ）を購入しました。これは、話すことが難しい方でも、視線や指などを使って伝えたい言葉などを入力し、自分の意思を示すことができる装置です。まずは職員が操作方法を勉強しているところですが、どのように活用できるか、利用者の皆様とともに模索していきたいと考えています。

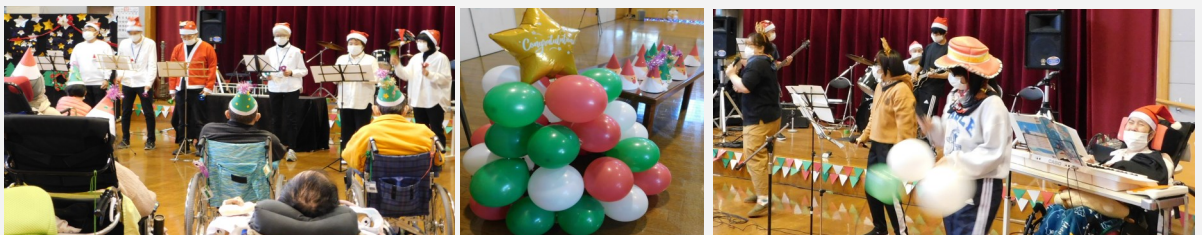


福祉機器の活用は、生活スタイルの選択肢を増やすことにつながります。今後も利用者の皆様がより自分らしい生活を見つけるための後押しができるよう取り組んでいきます。

12月20日クリスマスイベントを実施しました！



昨年の12月20日にクリスマスイベントを行いました。地域支援課職員によるハンドベル演奏、それに合わせて利用者の皆さんが歌う聖歌隊、そして、職員によるバンド演奏もありました。なんと今回の職員バンドには利用者の遠藤朋美さんもキーボードとして参加してくれました。遠藤さんは、かねてから「コンサートがしたいわ」と話しており、この日のために熱心に練習に取り組んできました。演奏後、たくさんの拍手を受け、遠藤さんは満面の笑みで「サイコーだわ」とおしゃっていました。





意思決定支援の推進について

生活支援部長 菴谷明日子

当園における地域生活移行推進にあたっては、今年度は特に、意思決定の前段階である「意思表出」や、「意思形成」及び「意思形成のための情報提供」の支援に取り組んでいます。

職員からの選択肢の提示に伝えるだけでなく、利用者自身の「想いや希望」を自由に表現できるよう、心理担当職員及び理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等の専門職とも連携し、適切なコミュニケーション方法の検討や、本紙表面でも紹介している「eeyes(イーアイズ)」等の意思伝達装置等を活用したコミュニケーション支援の拡大に努めています。

また、長年に亘り、当園の中で完結する生活を送ってこられた利用者の方々に「暮らしや日中活動の場には多様な選択肢がある」ことを具体的にご理解いただくため、介護保険施設や民間障害者支援施設、グループホームや見守り等ケア付き住居、療養型病床、生活介護事業所等、県内外の様々な社会資源の見学・体験等を、利用者やご家族等とともに実施しています。最近では、こうした見学や体験、通所を経験した利用者の方々の、想いや考え方の変化等を感じられるエピソードも多く聞かれるようになりました。

令和6年4月に実施される障害福祉サービス等の報酬改定に向けた国の検討の場においても、「障害者支援施設から地域生活への移行」及び「生活の場と日中活動の場の分離」推進の方向性が明確に示されています。また、当園が実施してきたような見学や体験等を、地域生活のイメージ形成等のための「動機づけ支援」として報酬上評価することも検討されています。こうした方向性も踏まえ、引き続き「通過型施設」として、「利用者の望む暮らしの実現」に努めてまいります。

「利用者の望む暮らしの実現」令和5年度の取組

地域支援課長 堀口利里

当園では、令和元年より、利用者の希望を聞きながら、ご自宅近くの施設への移行など地域移行に取り組んできました。今年度は、利用者3名がご親族の居住地近くの障害者支援施設に、1名がグループホームに移られました。令和元年7月に、初めて当園から特別養護老人ホームに移られて以降、高齢者関係の施設には計32名が、障害者関係では民間障害者支援施設に6名、グループホームに2名の計8名が移行されました。

また、近年は地域の障害福祉サービスの利用にも積極的に取り組み、今年度、6名が外部の生活介護事業所へ通所を開始しています。他にも、見守り等のケア付きの住居で一人暮らしにチャレンジしようとしている方、訪問介護などの在宅サービスを利用してご自宅でご家族との生活を検討されている方など、年々、地域移行の取組の幅が広がってきています。園を挙げて「利用者の望む暮らしの実現」を目指してきた成果を実感しています。

暮らしや活動の場を求めて見学、体験といった経験を重ねることで、「本当に自分がやりたいこと」を具体的に思い描けるようになり、「もっとこんな風に暮らしたい」「こんなところに通いたい」といった、新たな意欲とパワーが湧いてきます。未知・未経験なことへの挑戦は、とても緊張するし、思うようにできないことや想像とは違うこともたくさんあるようですが、職員に相談したり、時には利用者同士共感し合いながら、望む暮らしに向かってステップアップしています。今後も、皆さんが安心してやりたいことにチャレンジできるよう、職員一丸となってサポートしていきます。

～編集後記～

梅の花が咲き始め、春が近づいて来たように感じます。まだ寒い日が続きますが、お身体に気をつけてお過ごしください。

8ホーム 末光

